

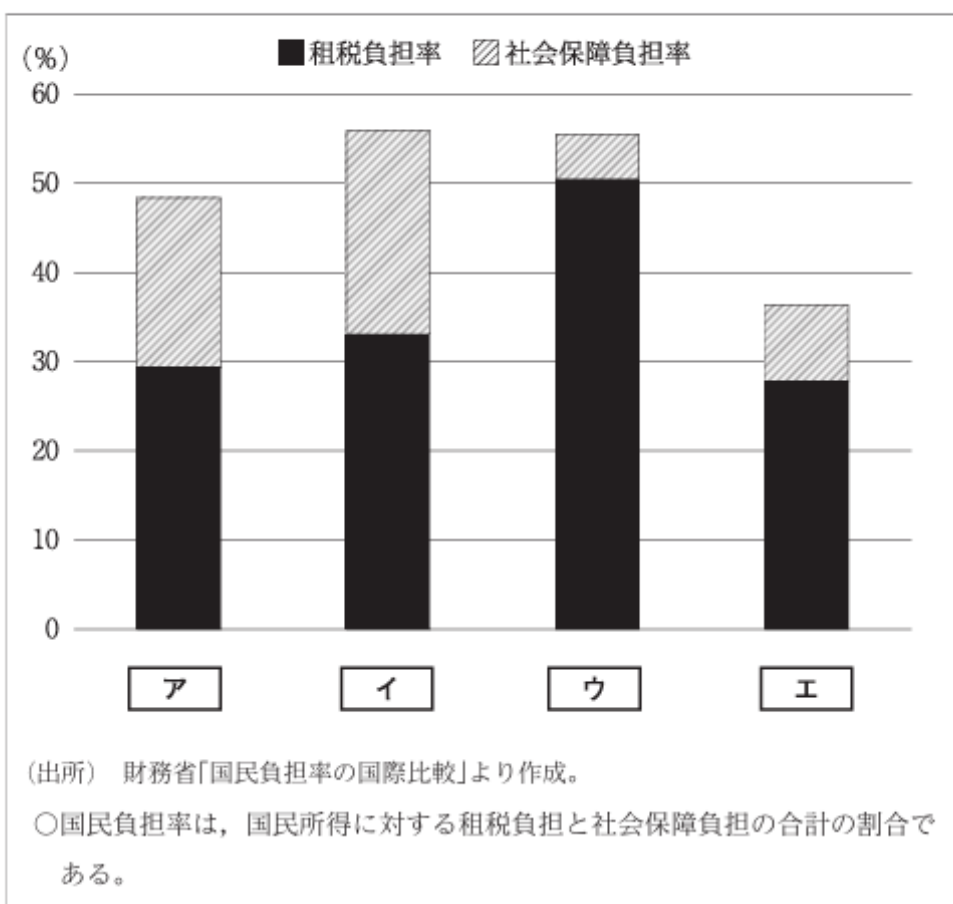
● 第3回全統共通テスト模試から見直しておきたい問題

【問題】

第5問

問 2 下線部⑤に関連して、生徒Yは日本、アメリカ、ドイツ、スウェーデンの4か国の2022年(日本は2022年度)における国民負担率について調べ、次の資料を作成した。資料中の空欄 **ア**・**エ** には、それぞれ「日本」または「アメリカ」のいずれかの国名が、空欄 **イ**・**ウ** にはそれぞれ「ドイツ」または「スウェーデン」のいずれかの国名が当てはまる。空欄 **ア**・**ウ** に当てはまる国名の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

22



- ① ア 日本      ウ ドイツ
- ② ア 日本      ウ スウェーデン
- ③ ア アメリカ      ウ ドイツ
- ④ ア アメリカ      ウ スウェーデン

## 【ポイント】

### 正解:②

この設問は、示されたグラフ資料について、日本、アメリカ、ドイツ、スウェーデンの4か国の近年における国民負担率を判断するものです。設問文によれば、空欄ア・エに入る候補は「日本」と「アメリカ」です。日本における近年の国民負担率が40パーセント台で推移していることや、アメリカの国民負担率が先進国の中でも低い傾向にあることが分かれば、空欄アには「日本」が、空欄エには「アメリカ」が、それぞれ入ると判断できます。空欄イ・エに入る候補は「ドイツ」と「スウェーデン」です。ドイツは、所得に応じて保険料を支払い、その拠出額に応じて給付水準が決まる所得比例方式の社会保障制度(いわゆる「ヨーロッパ大陸型」)を採用しており、その財源は、保険料の負担割合が比較的大きくなっています。これに対し、スウェーデンは、均一拠出・均一給付で全国民の最低限度の生活の保障を目指す社会保障制度(いわゆる「イギリス・北欧型」)を採用しており、その財源は、租税の負担割合が比較的大きくなっています。これらのことが分かれば、空欄イには「ドイツ」が、空欄ウには「スウェーデン」が、それぞれ入ると判断できます。共通テストにおいて、各種経済指標を読み解く力が求められることがあります。直前期には、例えば一般会計予算、国債発行額と国債依存度、税収状況、消費者物価指数と企業物価指数、GDP成長率、完全失業率、経常収支などの各種経済指標を、近年の時事的動向にも注意しつつ、教科書を用いて再確認することをお勧めします。